

ハンス・キュンクの生涯 4

「教皇の不可謬性を問う」

教皇の不可謬性への「疑念」ないしは、「拒否」を、キリスト教世界の真っ只中で、具体的に自らの「われ信ず（クレド）」で表明したのが、ハンス・キュンク。そのハンス・キュンクの「われ信ず（クレド）」は、以下ようになります。

イエス・キリストのあとに従いながら

ひとは今日の世界で

真に人間らしく生きて、行動して、苦しんで、死んでいくことができる

幸福な時も、不幸な時も、生きる時も、死ぬ時も、神に抱かれて、

人々をおおいに助けながら。



講 師： ^{ふ く し ま} ^{よ う} 福嶋 揚 さん

日 時：2026年 3 月 6 日(金) 午後 6 時～8 時

場 所：西宮公会教会 集会室

〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

0798-67-4691

阪急西宮北口駅より 徒歩3分

参加費： 5 0 0 円



福嶋 揚

1968 年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科（倫理学専攻）博士課程修了。チュービンゲン大学福音主義神学部を経て、ハイデルベルク大学神学部にて神学博士号（Dr.Theol.）取得。現在、東京大学研究員。著書は『カール・バルト——破局のなかの希望』（ぶねうま舎）、『カール・バルト——未来学としての神学』（日本キリスト教団出版局）など。訳書はユルゲン・モルトマン『希望の倫理』など。

権力者が「自分は間違いを犯すことはない」と言い張って、人々がそれを受け入れてしまうことほど、恐ろしいことはありません。太平洋戦争の時の日本を思い出してみればわかります。そのような独裁的組織は必ずや戦争や破滅に向かうことでしょう。今回は、神学者キュンクがローマ教皇の「不可謬性」の神話を止めようとして、たった一人で立ち向かった闘いを見てゆきます。

（福嶋 揚）

主催：関西神学塾

協力：障害児・者情報センター

問合せ：西宮公会教会

西宮市南昭和町 10-22

TEL：0798-67-4691

MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp